

元 来私はドイツ車のボル
 シェ356と911に
 乗りついでおり、世間ではボ
 ルシェバラノニアと称される
 部類の一人でもあります、
 或る日一台のイタリア車のアル
 ファロメオ・ジュリエッタ
 SVZに出会ってその丸い小
 さな可愛い姿に一目ぼれし現
 在1961年のアルファロメ
 オ・ジュリエッタSVZに浮気
 しています。と申しますのも
 昭和31年に運転免許を取得し
 て初めて乗った車がイタリア
 車のフィアット500クーペ
 (トッポリーノ)でした。5
 00ccの小排気量のエンジン
 との出会いが楽しく、極限近

神戸クラシックカークラブ会員の
 自慢のクラシックカーが次々と登場します。
 車の種類は玉石混合ですが、自分の車に
 対する思い入れは金額に関係なくお宝です。
 愛人のように?

ちいさな ブンブン丸

アルファ・ロメオ・ジュリエッタSVZ、SVZ
 文=小田迪彦

Essere Bambino

いつまでも
 少年のように



神戸のクラシックカー



アルファロメオ・ジュリエッタ・スプリント・ベローチェ・ザガート



SVZは1957
 年にザガートの
 工房へ当時
 ヨーロッパの
 レースで活躍
 していたスプ
 リント・ベロー
 チェのオーナー
 が更なる高速走行が出来る様に
 改造を依頼し、車重の徹底的な
 軽量化を計る事を目的として鉄
 製ボディを剥ぎ取って、手作業
 によるアルミボディ容姿を変え
 て作られた車です。そのSVZは
 その後当時のレース (1300GT
 クラス部門) で優勝を何度か得

たので一躍有名になりました。
 その後アルファロメオでレース
 に出ていた幾人かのオーナーか
 ら依頼を受けたザガートは少数
 のSVZ (生産台数は20台位と
 言われている) を送り出しまし
 た。それぞれの車はオーナーの
 好みやドライバーの体形等々、
 試行錯誤の末に作られたもので、
 各車の細部は少しずつ異な
 っています。これらのSVZは各
 レースにおいて、クラス別で
 他社の車に対して無敵であり、
 立派な成績を残した様です。

く迄回して性能を引きだすことの喜びを知りました。

小

さな車の事をイタリア語ではベルリーナと言

っていたが、その後イタリアのカロツツェリア(特別な個人の工房)が制作した2シータークーペのGTカーをベルリネッタと表現する様になりました。SVZ及びSZの正式名は前者は「アルファロメオ・ジュリエッタ・スプリント・ペローチェ・ザガート」、後者は「アルファロメオ・ジュリエッタ・スプリント・ザガート」で、ヨーロッパのベルリネッタの部類には入ります。

1

957〜1961年に

かけてSVZの発展型としてSZが特別限定(約200台)生産されました。車全体のシルエットは、ほぼ後期のSVZと相似しています。もちろんサーキットで速く走れる様に重量削減のためボディ及び付属する金属部品全てが手作業によるアルミ製で、フロントガラスを除き全ての窓はアクリル樹脂製で、車重は約800kg弱でした。エンジンはDOHC4気筒で

排気量1300cc、ウェーバー製キャブレター2基を備え、圧縮比9.7(当時では驚くべき高圧縮)で、100HP/6500rpmを得、当時最速の1300GTカーでした。ほとんどのSZはエンジン・チューナーであるコンレロ社によって110〜130HPにチューンアップされ5速のポルシェ・タイプフルシンクロ・ギアボックスにより最高速も200km/h+αを記録しました。SZの戦歴は、1961〜1963年にイタリアのタルガ・フロリオで、また1962年にドイツのニュルブルクリンクでクラス優勝し、他のレースでも好成績を残しています。

SPECIFICATION	アルファロメオ・ジュリエッタ・SZ
全長×全幅×全高	3920×1540×1220mm
ホイールベース	2250mm
トレッド(F/R)	1292/1270mm
車両重量	785Kg
エンジン形式	直列4気筒DOHC
ボア×ストローク	74.0×75.0mm
総排気量	1290cc
圧縮比	9.7:1
燃料供給	ウェーバー40DCO3×2
最高出力	100HP/6500rpm



1961年製アルファロメオ・ジュリエッタ・スプリント・ザガート

ご出席者
 清原桂子 (兵庫県理事)
 田中裕子 (株式会社夢工房 代表取締役社長)
 小川千賀子 (株式会社デザインクラブ 代表取締役)
 榎本靖子 (株式会社アンサー・ウ・ 代表取締役)
 村山順子 (有限会社プロシード 取締役)



兵庫・神戸のグランドビジョン 女性のかがやくまちに

こどもたちに残す神戸

“女性未来会議”
 女性の未来に向けて
 広がるネットワーク

清原 今年の10月に「ひょうご女性未来会議」が立ち上がりました。これまでも各界で女性たちが、いろいろな切り口でがんばろうとしてきたのですが、なかなか難しい面もたくさんあったと思うのです。ひょうご女性未来会議では、産業界、学会、芸術文化、地域団体、NPO、専門家などで、肩書に関係なく、生活に根ざした新しい社会をつくっていききたいという熱い思いを持っている、その一点だけで集まってもらったのです。現在約450名の方々に会員として入ってもらっており、会費が10000円、それぞれ企画から考えてもらい各グループで例会を開催してもらいます。3〜4ヶ月に一度ずつもち回りをしますが、すでに率先して手を挙げてもらっています。

また兵庫県知事や神戸市長、商工会議所会頭、医師会長、など、各界のトップリーダーの男性たちにも、ひょうご女性未来会議応援団として参加してもらっています。同じ思いを共有できる男性た

個人と個人でネットワークを広げていなければ

ちもまきこみながら、横へ横へとつながっていききたいと思っています。

これからの社会はフットワークが切り開きます。フットワークの「フ」は踏み出すの「ふ」です。考えているだけでは駄目なんです。「ツ」はつなぐの「つ」。横へ横へとつないでいきます。従来型のやり方では壁があるようなところでも、個人と個人とのネットワークで新しい可能性が開けていきます。「ト」はとらわれない発想の「と」です。

今日来られている各企業の社長さんはみんなそうだと思うのですが、従来のやり方にとらわれない発想が、新しい未来を切り開きます。いま神戸、兵庫に必要なのはそういうことだと思います。これまでの男性社会のなかでは、「そんなことがビジネスになるわけな



清原桂子
 兵庫県理事

い」とされていた部分こそが、いまいちはん可能性をもった部分になっているように思います。「踏み出す」「つなぐ」とらわれない。この3つをキーワードに、ぜひ多くの働く元気な女性たちに参加していただきたい。まだまだ兵庫はうつむいていますから、外に向かつて明るく楽しく、元気に頑張っ

てほしいと思っています。村山 いまの清原理事のお話に感動しました。考えてばかりいるのではなく、踏み出すことが大事だということ。私自身、走りながら考え、考えながら走り、起業しました。独立して3年余ですが、「働く女性のサポートがしたい」ということで、いまメインは家事代行サービスです。

「社会に貢献したい」という思いで始めた仕事ですから、まずお客様に喜んでいただくことが第一だと思っています。経営者としては甘いかも知れませんが、利益はあとからついてくるものだと思います。志をもってやり始めたか

らには、誠実な仕事をして働く女性のサポートをしていきたいと思っています。

小川 デザインクラブは1998年4月1日に設立しました。昨年

10月には東京にも進出しました。事業としては部屋のプランニングからインテリアデザインを専門に、新築の段階で室内設計を請け負う会社です。設計変更は、すでに700組以上のお手伝いをさせていただいています。いろいろやりた

いことなど工夫は凝らしているのですが、日々頭を悩ませ、ない知恵を絞って事業を進めています。働き方にもいろいろな働き方があると思います。

企業としては、何とか毎年黒字にしているという心がけています。この度、会社設立5周年を記念して、くすのき基金チャリティコンサートを主催しました。くすのき基金とは、震災で保護者を失った子供たちに、月額1万円支給される基金です。良かったら募金して

いただこうという主旨で、みなさん無料できていただきます。何もかも初めてで、司会からすべてやらせていただくことになっており、不安もあるのですが、協賛企業を募ったところ42社も集まっ

ていただき、大変励みになっております。入場者数も申し込んでいただいた方々が全員来て下されば、ほぼ満席になります。ささやかですが、何か地域に貢献できれば思

っています。

清原 小川さんの会社は、これまでになかった発想ですよね。今まで誰も手をつけなかった新しい発想だと思っています。

小川 すでに持っている家具を利用した間取り変更や、何LDKという概念を取り払うところからスタートしたのです。

田中 私もマンションのモデルルームなどを見に行くと、間取りや収納はそのパターンしか駄目なものだと思い込んでいました。

小川 あとから手を加えるリフォームは、壁を壊さなければならなかったりで、かなりお金がかかってしまします。ゼネコンの所長さんや現場の方には嫌がられること

もありましたが、打ち合わせから最後まで徹底して丁寧に行うことで、少しずつ信用がついてきたように思います。お客様にはアンケ

ています。

田中 私「女性の働き方」をテーマに、自分の会社を通じて少しでも影響を与えることができればと思いながらやってきました。私どもは、17年前からコンピューターのソフトをつくりつづけていま

す。自宅にパソコンがあまりなかった時代から、家庭の主婦にも楽しんでコンピューターを利用してほ

しいかと思っていたのです。会社をやりつつ「女性の生き方」「女性の働き方」について考え、会社内でそれを実践しているような感覚が強いのです。

私が会社にいた頃は、女性は結婚または出産で退社するのが普通で、平均勤続年数も3年弱でした。ほとんどの方が辞められる状況でした。私自身、就職から結婚、出産を通じてずっと仕事はつづけた

かったのですが、やはり男社会のなかで、頑張れば頑張るほど限界も感じていました。そんなときに主人のアメリカ出張に同行したことがきっかけで、それまでの仕事感が変わってしまったのです。

「働くことが人生のすべてではな

い」に答えてもらい、喜びの声も、不満の声も社員全員が目を通して、今後に活かせるように努めています。

田中裕子

株式会社夢工房 代表取締役



みんながつながって明るい神戸、明るい兵庫を

田中 私は「女性の働き方」をテーマに、自分の会社を通じて少しでも影響を与えることができればと思いながらやってきました。私どもは、17年前からコンピューターのソフトをつくりつづけていま

す。自宅にパソコンがあまりなかった時代から、家庭の主婦にも楽しんでコンピューターを利用してほしいかと思っていたのです。会社をやりつつ「女性の生き方」「女性の働き方」について考え、会社内でそれを実践しているような感覚が強いのです。

私が会社にいた頃は、女性は結婚または出産で退社するのが普通で、平均勤続年数も3年弱でした。ほとんどの方が辞められる状況でした。私自身、就職から結婚、出産を通じてずっと仕事はつづけたかったのですが、やはり男社会のなかで、頑張れば頑張るほど限界も感じていました。そんなときに主人のアメリカ出張に同行したことがきっかけで、それまでの仕事感が変わってしまったのです。

い」ということに目覚めたのです。その後、いろいろな働き方を実践してみようと思い、パートからアルバイト、契約社員、フリーといろいろやってみましたが、どれをやってみても、結局は使い捨てたしかならませんでした。これではいけないと思い、働く女性が家庭を守りながら働ける、女性のための会社を設立しようと思ったのです。

仕事量、種類、負担など、働く女性それぞれのスタイルに応じて仕事を振り分けていたのですが、いま思うとワークシェアリングをやっていたのですね。その頃はそんな格好いい言葉も知らなかったで、「三人で一人前」とか「二人で一人前」などと呼んでいたのですが（笑）。その人にあつた仕事量、パート勤務、在宅勤務など、いまいろいろな働き方が叫ばれています、それらを全部やってきたと思います。

榎本 私は化粧品メーカーを49歳のときに開業しました。バブルの最盛期で、外国からもたくさんの化粧品が入ってきていた頃でしたが、本当に安全な化粧品をつくり

たいと思ったのです。自分の足で歩き、日本中の女性に会ってききました。そこで思ったのが、化粧品に対する認識が変わりました。日本人も昔とは随分変わってきました。私は明治時代の母に育てられたので、明治時代の精神的な遺産が少しは残っているのですが、もう少し若い人になると、生活文化に根ざしていない外見だけの美しさを求める傾向が強いように感じました。それは少し違うような気がして、化粧品を売るだけではなく、生活文化の提案者になってみたいと思ったのです。

清原 みなさんライフスタイル、生活デザイン、生活文化などを提案しているという部分で、共通されていますよね。生き方、働き方、暮らし方とビジネスをつないでいきます。それともうひとつみなさんに共通しているのが、楽しさとビジネスです。いまを楽しむことが、ビジネスにどうつながるかを考えておられるように思います。生活も仕事もみんな楽しみたいですね。その上で、社会に貢献したいという思いがあると思うのです。みなさんは社会への役割と楽しみ

とビジネスを、うまく循環させてつなげている先駆者なのだと思います。これまでのようにいくら公害をまき散らしても、売れば良いという時代ではなくなってきました。新しい企業の時代です。女性たちが、生活のなかで培ってきたものを、社会に活かしていかなければなりません。

だからこそ兵庫の女性経営者たち、これからの女性起業家たちが個人と個人でネットワークを広げていかなければならないと思っています。いまの時代、求められているのは「等身大のビジネス」です。本音とたてまえの区別がないビジネスのことです。それが「私らしく生きる」ことにつながっていく、それが地域や社会への貢献にもつながるのだと思うのです。

女性が語る、 明るい神戸・兵庫へ 未来への提言

清原 私は震災後ずっと復興の仕事をやってきました。震災後の被災地で「生きるということ」「仲間をつくるということ」「これからの未来につなげるということ」

すべての人に対して、やさしい都市であってほしい



小川千賀子
株式会社デザインクラブ 代表取締役

を、私たちは痛感してきたはずなのです。震災からもうすぐ8年が経ちますが、そのことを無駄にしてはいけません。ところが、当時の気持ちや思いが、少しずつ薄れてきているような感じがあります。折からの不況も重なり、みんながうつむいてしまっているように思えるのです。あの体験を無駄にせず、もう一度、元気な神戸、元気な兵庫を取り戻したい。新しいライフスタイル、新しい働き方、新しい社会そのものを、この神戸、兵庫から発信したいという思いがあります。

村山 私が起業したのは、朝、元気に出張に出かけた主人の突然の死に出会ったからです。いつ終わるかも知れない一度しかない人生!!自分らしく生きてみたい。そ



榎本靖子

株式会社アンヌヴォ 代表取締役

よく比べられますが、私は横浜より断然神戸が好きです。だから神戸は、すべての人に対して、やさしい都市であってほしいと思います。お年寄り、小さな子供たち、働く女性、すべてにやさしいまちであってほしいのです。

私共の事業に関してデザインクラブは提案者であり、お客様の「親友」でありたいと思っています。そして東京でも、「神戸のデザインクラブ」として憶えてもらえるように、がんばっていききたいと思っています(笑)。

田中 神戸はやはり、少し震災時の気持ちを忘れているような気がしますね。神戸は個性的なまじだからこそ、ブランド力があるのだと思うのです。神戸でがんばっている経営者の方々も、個性的であることにこだわっておられると思います。ただ個性的でありすぎて、横のつながりが希薄な面も否めませんね。理事さんが仰っているように、これからは横のつながりが大切だと思うのです。みんながつながって明るい神戸、明るい兵庫を目指せばいいと思っています。

小川 神戸にはブランド力があります。デザインクラブも東京では、社名は憶えてもらえなくても、「神戸のデザイン会社」として憶えてもらっています。東京と比べると、神戸は本当に緑が多いと思うのです。人工的につくられたまちというより、昔からのものを大事に使っているように思えます。

するプログラムです。食事の場は家族みんなで和む場ですし、いけばん大事な部分だと思うのです。未来を背負う子供たちのために、なにかを残したいですね。

清原 コミュニティという言葉はもともとコミュニケーションという言葉から来ており、これは「食卓を共にする」という意味です。ですから基本的に食卓を共にすることを通じて、人と人がつながっているのだと思います。

榎本 実は数年前、淡路島にある後継者がいなくなった江戸時代の家屋を買い取ったのです。これを何とか後世に残さなければならなと思います、みんなが集い体験する場としての空間創りの修復をいたしました。私は日本全体が、もう一度、この国のありよう、すなわち伝統文化や農村文化など原点に戻るべき時代なのだと思うので

村山順子

(有)プロシード 取締役



安心して働き、くらせる、生き生きとした神戸に

す。自然の美しさなどから創造的学習がめばえ、又食の安全、安心、健康を共に愉しむアグリライフの場として「おかげ庵」を活用する準備をいたしております。もう一度食を見直す、特に子育て中の母親の役目が大事です。

ファーストフードに対して食材を吟味し丁寧に料理をするスローフードを「おふくろの味」世代の我々が何とかしなければならなと思うのです。

食の問題は本当に大切だと思います。三代が共に学び合う場として「おかげ庵」がお役に立ちたいと思います。

清原 これからの企業というのは、地域や社会、生活や文化と結びつきながら、新しい提案をしていくべきものだと思うのです。今日お集まりいただいた、生活者として働いてきた女性経営者の方々のような皆さんと、もっと横の広がりを広げていければ、明るい兵庫を目指せるのではないかと思います。私ももつとがんばっていかなければと、とっても刺激を受けました(笑)。

第12回ロドニー賞 北野のギャラリー 島田社長・島田誠さんが受賞



(写真上)ロドニー賞審査員の方々と島田誠さん (写真下)陳さんから賞を受ける島田さんと、風月堂の下村俊子社長

株

式会社風月堂が主催する第12回「ロドニー賞」。

幕末の神戸開港に祝砲を放ったイギリス艦隊の旗艦・ロドニーのように、神戸をドカンとびつくりさせた人に贈られる賞。

今年はギャラリー島田の社長・島田誠さんが受賞。11月12日、風月堂本店2階レスポワールルームにおいて授賞式が開かれ、選考委員長で作家の陳舜臣さんから島田さんに賞が贈られた。



第7回アニメーション神戸 今年度、あなたがハマったアニメやゲームは何？



(写真左上)矢田神戸市長から受賞する原恵一さん (左下)丸山正雄さん (右上)受賞者・審査員・ワークショップ講師陣のみなさん (右下)歌手の岡崎律子さんとAM神戸のパーソナリティー・岩崎和夫さんと南かおりさん

毎

年行なわれているアニメーション神戸の中心

になるのが「日本アニメ界のアカデミー賞」といわれるアニメーション神戸賞だ。昨年から今年にかけての商用アニメの中から選ばれる。個人賞に、大人も楽しめる映画として評価が高かった『クレヨンしんちゃん』の演出家・原恵一さん。特別賞に、制作のプロ・丸山正雄さん。作品賞に『猫の恩返し』、『ラーゼフォン』、『ほしのこえ』(これは新海誠監督が脚本・作画などをすべて手がけ、パソコン1台で創り上げた作品)、『ファンタジーXI』、主題歌賞に『For フルーツバスケット』。

審査委員長の斎藤裕さん(『アニメディア』編集長)からは「神戸市民が投票して神戸市民賞というのを作ってみてはどうか」という発案も。

須磨琴保存会・張文乃さん 第26回井植文化賞受賞を祝う会を開催



(写真左)お孫さんに囲まれ祝福される張文乃さん (写真右)祝賀会で須磨一絃琴の優雅な音色を披露した保存会のメンバーたち

張文乃女史 第26回 井植文化賞 受賞記念祝賀会



須磨琴保存会は、井植文化賞（地域活動部門）と、ボーラ地域活動文化賞の二重の受賞を祝い、11月12日ホテルオークラ神戸で約150名が集い祝賀会を開いた。オープニングで雅びな一絃琴合奏の音が響き、魅力を披露。永年の音楽活動を通じ人々の心を結ぶ草の根活動が評価されて井植文化賞（国際交流部門）を受賞した張文乃さんは11月23日第一樓で祝賀会を。発起人代表は作家の陳舜臣さん。その功績とご苦労をねぎらう宴となった。

新そばを食す会 古きよき京都の雰囲気を感じて



(写真左上)そば打ちする姿 (写真右上)旧家の雰囲気が漂う (写真下)前列左から2番目が庄屋nobの吉尾さん



京 都の旧家を事務所とする庄屋nobと長野でペンションを営む「かんでら」とのコラボレーションで新そばを食す会が開かれた。一歩入るとそこには昔の日本の生活空間が広がっており、そばを打っている姿も目に入り、普段とは違う時間の流れを感じてしまった。

ここは普段、建築事務所として使われており、「これからいろんな形でこの場所、空間を活用していきたい」と庄屋nobの吉尾さんは語っていた。古いものを時代に合せ有効活用していく。新しい発想がこのにあるのでは。



今

回は、角本稔会長の名案
内に加えて、澤田清先生
の建築解説と、元神戸税関長の
濱田明正さんに、新神戸税関本
庁をご案内いただいた。

まず市庁舎1号館をエレベ
ーターで24階へ。南に向いている
窓から第1・第2ボーアイ、神
戸空港の建設ぶり、神戸税関本
庁と関西電力。そしてルミナリ
エの準備整った東遊園地を望む
美しい眺め。東遊園地では阪神

淡路大震災の記念モニュメント
を見学し、希望の灯りを後に、
AC・シムとモラエス像を。東
遊園地から南へ。

地方合同庁舎の前庭に、神戸
税関発祥の記念碑に出会う。1
868年1月1日、神戸港の開
港にともない徳川幕府が、外交
事務を行うために開いた兵庫運
上所が神戸税関の前身である。
初代庁舎が明治5年に着工し、
運上所から税関として改称した

説明する濱田明正さん

第27回ポートウォッチング 神戸港を考える会

「モダンな神戸税関本庁 とロマンチッククルージング」

年に誕生したが大正11年火災の
ため焼失し、現在の場所へ。時
計塔のある旧庁舎は、昭和2年
に竣工。

濱田明正さんは、この旧庁舎
最後の神戸税関長で、震災から
船をイメージして創られた新庁
舎建設に心をくだかれた方。

平成10年に3代目がお目見え
し、旧庁舎のイメージを遺しつ
つ船型に建築が完成。中庭にあ
る船型の新庁舎は名建築といっ
て過言ではなく、新旧のバラ
ンスが清々しい。旧庁舎の税関長
室内は扇型のゆったりとした趣
きのあるインテリア。アメリカ
の進駐軍がいた頃の帆船絵（作
者未詳）が飾られ、なかなかの
趣き。濱田さんが最後に座られ
ていたという税関長席もどっし
りと風格が漂っていた。

税関を後に、新港地区から、
京橋の海軍操練所碑を見て、メ
リケン地蔵、そして栄町の全日
海ビルで「海の墓標を」と戦時
中に沈没した船の全てをコレク
ション。その時の戦死者をしの
ぶ姿を後に中突堤の「ポートオ
ブコウベ号」に乗船。ワインに
パンとチーズで港めぐりのクル
ーズを楽しんで散会した。

海 | 船 | 港

11月24日は日曜日、秋晴れの好天気。

第27回ポートウォッチングは、
「モダンな神戸税関本庁とロマンクルージング」
のコースに70名が大集合



第4回の「かすたむフェア」で、市民に解放され、麻薬探知犬による検査のデモンストレーションや、児童画・書道コンクールが展示され、兵庫県警のプラスバンドが腕前を披露した。ほか神戸税関音楽隊、シャシャ・アンサンブルも登場。吹きぬけの音響効果抜群のロビーで音色を響かせた

ポートウォッチングに参加された
神戸港を考える会のみなさん



2002年の重なり



瀬戸本淳
(株)瀬戸本淳建築研究室



『ボンベイ〜今日と2000年前の姿〜』より パンサの家：列柱に囲まれた中庭

先日イタリアを訪ねました。ナポリはわが神戸の地形によく似ていて、その近くにボンベイの遺跡があります。ベスビオ山のもとに紀元前8世紀頃からつくられ繁栄した町で、紀元79年8月24日正午、ベスビオ山の大爆発により灰に埋もれてしまった、あのボンベイです。

3日間におよぶ大惨劇、そして静寂、高さ6mの灰が歴史からボンベイを消し去りました。盗掘やずさんな発掘によって荒らされていったのですが、1860年から組織的な発掘が続けられており、今では当時の様子を伺い知ることができます。

2000年前の人間社会は電気や電話、自動車がない以外、本質的には現代の社会と大きな違いはないと思います。市場があり、様々な劇場、神殿、法廷、議会などがあります。大家族の家(DOMUS)や小さな家にも中庭のアトリウムがあり、光にあふれています。家の周囲には、居酒屋、喫茶店、パン屋、洗濯屋、染め物屋、医院、浴場、

宿などが立ち並んでいます。しかし、心から驚かされるのは、人々の生活が現代よりもっと活発で、積極的で、自然に対してより敏感な反応を示していたことが想像できることです。散歩して楽しい町、精神の軸も神聖な場も、人生の豊かな楽しみの場もすべてあるのです。

「いかによく生きるか」。いかに生活を楽しむことができるか。それらが具現化された町は、芸術的効果も相まって素晴らしい集住の町、人々の生きる意欲と期待を受け入れる包容力を十二分に持った町だったのです。そんな喜びにあふれる人々の生活を垣間見ることができました。要するに生活が豊か、そして空間が豊かなのです。

2000年間、人々の生活は何が変わったのでしょうか。変わったもの、変えてはいけないものを見つめながら、人々は「いかによく生きるか」を追求する。このテーマに沿って、神戸も新たなスタートを切りたいものです。

「花の景」を あらゆる空間に



高田昇

COM計画研究所



街角の花：山本通

「花降る午後」、宮本輝の小説のタイトルを引き合いに出して、芸能評論家・木津川計氏は、都市のイメージが重要であることを力説しておられる。いうまでもなく「花降る」はその舞台が神戸。ちなみに氏はよしのだが大阪が「銭降る」では、いけません、と説く。今の大阪にもうそんな元気も感じられないが、いずれにせよ三都がそれぞれの特性を生かしながら、相乗効果を発揮したいものである。

さて、なぜ神戸が「花」なのか。何となくそう言われれば、と思わなくもないがかなりイメージ先行の感もある。古くは花時計から始まって、布引ハーブ園、須磨離宮公園とスポットとして、またフラワールードをはじめ、居留地、トアロード、鯉川筋、北野と街ぐるみストリートとして充実しつつあることは確かだろう。でも改めて身近な街角を見渡してみると案外「花の景」が少ないようにも見受けられる。

でも、都市イメージとして

の花をもっと実体あるものとして真剣に取り組んでいいのではないか。ただし、パンジーでもコスモスでも何でもいから目に止まる花がたくさんあれば、というのではなく、これからの時代、地球市民の立場として、コミュニティの再生として、花の力を借りることである。兵庫県ではこの10月、屋上緑化を義務づける条例がスタートしている。神戸市では屋上緑化により建物の設計に特別のボーナスをつける制度ができた。それらは都市気候、洪水防止、ヒートアイランド現象緩和、省エネ、大気浄化などトータルな都市環境を視野に入れていること。草木はまた、植え方の工夫で、蝶やトンボ、鳥が街と仲良く生きる「生物回廊」をつくることにもつながられる。

花と緑を街の飾りとする発想を脱し、大きな公園や道路だけでなく多彩な花と緑を道端に、軒先、店頭、窓辺、あらゆる空間にとり入れることで、人と街、そして内面に自然をとりもどす21世紀型世界都市・神戸であってほしい。



次代を創る ③

神戸のニューリーダー

青山 一

信和住宅販売(株) 代表取締役

あおやまはじめ 1964年神戸市生まれ。87年近畿大学商経学部経営学科卒業。同年、(株)大京に入社。神戸営業所営業課、総務課賃貸係、分譲貸しの管理などを担当し、94年退社。94年信和住宅販売(株)設立。

青山流大手対抗手段は 気持ちで負けないこと

— この業界の現状は？ —

マンションでも一戸建てでも、デザイナーズが人気です。いずれにしても土地との出逢いがすべてです。これから企業や個人の、土地の転売が増えてきます。また、いつの時代でもニーズはあるものです。大手に対抗する

手段としては、青山流で言うところ、気持ちの部分だけです。ね。

— もともとはどのような仕事をしていたのですか？ —

某大手デベロッパー社員でした。ところが2年で手術するほど体を壊して、営業職からは離れたのです。思うように成績が上がらないのと、上司との確執で、神経的に弱っていたのだと思います。7年在職したので

すが、そのうち1年は雑務、4年は管理部門が独立した子会社に勤務していました。

— 独立のきっかけは何だったのでしょうか。 —

はじめは独立などまったく考えていませんでした。ところがやり手の先輩たちがみんな独立していくのを見て、徐々に考え出すようになったのです。独立する人はお金を稼ぐことにどん

欲な人が多かったのですが、そういう人ほど、人間臭い魅力がありましたね。それと、体を壊したときにゆっくりと将来のことを考えましたね。会社においてもこれ以上のことはなにもないと思ったのです。

— 独立当初、将来のビジョンはありましたか？ —

稼ぐ事以外まったくありませんでした。日々食べていくの

マンションの販売戸数は 兵庫県下でトップクラスを誇る

を考えるので精一杯でした。はじめは専務とふたりだけだったのですが、その後、女性スタッフがひとり入り、ワンルームからスタートしたのです。数年後に、やっと販売代理が取れたのです。神戸の場合は、震災後に住宅需要が跳ね上がったのが大きかったですね。

いつでも相手の目線で「信」と「和」を大切に

— 今後の戦略はどのようにお考えですか。

数を追いかける時代ではないと思います。どれだけ価値のあるものを提供できるかが重要です。住宅の完成度自体はどこも高いですから、どれだけ土地に合った物件づくりをできるかがポイントだと思っています。ですから仲介業者さんなどからの情報は本当に貴重ですね。あと新しい展開として、古い家の再生には興味がありますね。買い換えができない人もたくさんいますから、リフォームを含めたコンサルティングができる会社を目指すべきだと思っています。これまでその分野はほとんどやってきていませんが、それ

をするのもディベロッパーの仕事だと思っています。うちにはつくる技術はありませんから、誰かと手をつなぎやっていくことになるでしょう。

— 人材育成、リーダーシップについて、どうお考えですか。

うちは社員の平均年齢が30歳位です。時に年長者は転職で逃げ場を求めている人が多いように思うのです。社員とは飾って接しないようにしています。ですから機嫌が悪いときには機嫌悪く接します(笑)。同じ職場の仲間として、できるだけ自然体で接していきたいと心がけています。

— 大卒者に求めるものは何でしょう。

— どれだけ信念を持ってやってきたかということですね。あと明るく元気なことは必須条件です。うちの会社は勉強レベルの低い子達が集まっているのです(笑)。悪さばかりしてきた子が多いのです。大手の場合、勉強レベルは高いけど、どうしても機械的になりがちなのがします。社員には「早く上がってこい」と言っています。20年後会社を支えていくのは、これから

入ってくる子達だと思っています。僕自身は、あまり裕福ではなかったにもかかわらず、無理を言って大学に通わせてもらったので、働くということにはとても敏感でした。いつでも

その人の目線に合わせて仕事したいですね。手を抜きたい加減なことだけは絶対にしたくないのです。社名にも使っている「信」と「和」を大切にしていきたいですね。



(上)阪神間のマンションの販売が中心となる。ベースは、「セレスココート芦屋山手町」
(下右)床にテラコッタ調タイルを採用したクラシカルアーチ
(下中)シックなトーンを基調にした玄関・ホール
(下左)美しさと実用性を重複したリビング



多様な働き方で新しいライフスタイルを――

コミュニティ・ビジネスで生きがいづくり

お話を伺った方 伊藤正史さん 兵庫県産業労働部参事



伊藤正史さん



集権から分権、画一化から多様化へと時代が変化する中、地域の問題は地域で解決するといった流れが生まれています。その取り組みを継続的に展開する手段として注目を浴びているコミュニティ・ビジネスについて産業労働部参事の伊藤正史さんにお話を伺いました。

――コミュニティ・ビジネスについて教えてください

成熟社会を迎え、価値観の多様化や個性化が進む中、これまでの画一的な行政では対応しきれない地域課題が顕著化しています。そんな中、県内各地では、阪神・淡路大震災の教訓を生かし、地域の問題は住民自らが解決しようというコミュニティ活動が広がりを見せています。

このような活動を継続的に展開していくため、ある程度の収入を確保しようとするのがコミュニティ・ビジネスです。それは、利益や効率を第一とするのではなく生活スタイル

や生きがいなどの価値観を大切にしたいものです。明確な定義付けは難しいですが、「地域にある資源を生かしたい」「地域の課題を何とか解決したい」といった思いに支えられた活動であるといえます。

――どのような実践活動が行われていますか

日常生活の中、行政の一元的な対応や企業の採算性を重視したサービスでは、住民が十分な満足を得ているとは言いがたい面があります。地域のニーズは地域の人が一番理解しているもので、さまざまなニーズに対応しようと、現在、多種多様な分野で事業が行われています。

介護保険で介護認定の範囲ではないが日常生活で不便と感じている人に対し無理のない価格で細かいサービスを提供したり、介護者のケアを目的とした地域拠点づくりや福祉機器のリサイクルに特化するなど地域の実情にあった活動が行われています。



す。

そのほか神戸の特徴的なものとして、医療機関や外国人などに対し翻訳や通訳の提供などを行っている団体や、震災ボランティアの経験から言葉や習慣、制度の違いを当然として受け入れることができる「多文化共生社会」の実現を目指してセミナーやオリエンテーションなどの活動を行っているグループもあります。

県ではどのような支援を行っているのですか

このような多くの団体で、経済基盤の弱さや、思いを持った仲間はいないが、ビジネスの専門家がいないといった声をよく耳にします。そこで、県では少しでもこのような活動の力になればと、ビジネスの立ち上げ時の資金支援や経営コンサルタントの派遣を行うとともに、コミュニティ・ビジネスに関する相談窓口となる「生きがいしごとサポートセンター」を神戸と宝塚に開設しました。

また、雇用創出事業の一環として、ビジネス経験が豊富な中高年失業者などによるコミュニティ・ビジネスへの体験就業を実施しています。これは、経営や労務面での知識や能力をコミュニティ団体に注入できるとともに、新たな分野での就業の促進にもつながると期待しています。

「生きがいしごとサポートセンター」について教えてください

生きがいしごとサポートセンターは、県の委託事業としてNPO団体が運営しています。主な活動として、コミュニティ・ビジネスに興味のある人や将来こういった分野で働きたい人に一定期間、NPOでの体験活動の場を提供したり、事業計画の作成セミナーを開催したりするなど、情報提供から経営上の相談まで幅広い活動を展開しています。

センターは、コミュニティ・ビジネスを一元的にサポートし、皆さんの思いを少しでも形にする場です。地域で何か活動したい、生きがいをもって働きたいなど何か漠然とした思いがあれば、気軽に一度センターへ足を運んでください。

生きがいしごとサポートセンター 神戸

■開設時間 火～金 11時～20時 土 10時～19時（ただし、祝日及び年末年始・13時は除く）

■住所 神戸市長田区若松町2-13-1

PIAZZAビル2階

☎078・6122・7319

生きがいしごとサポートセンター 阪神

■開設時間 火～土 9時～18時（ただし、祝日及び年末年始は除く）

■住所 宝塚市栄町2-2-1

ソリオ3・4階

☎078・87・4350